

住宅政策に医療を、

全国住宅関連産業団体と日本

業界は「健康長寿延伸」産業に携わる誇りと使命を持って

小児病棟に飾った花
小学生の時、ナイチンゲールの伝記を読んで看護師になること決めた。慶応大学病院の小児科の看護師として働いていたとき、白血病の子供の部屋にカーバラの花を飾った。血液データも良くなり、元気になってくれた。病院も環境を委ねればパワーが上がる。と気が付き、今度は壁に落書きができるようにしようと提案したが、実現できなかった。それならば私が病院の環境を変えよう。と、独学からスター

病院ではなく「健院」を

トして建築サインの世界に入った。ナイチンゲールが病棟建築の元祖でもあったこと、団を結成した。

人間が再生される環境づくり

ドムステザイン代表取締役 戸倉蓉子氏

にも勇気づけられた。イタリア・ミラノに留学。音楽家のための老人ホームで行われるコンサートに、入居者着飾って参加する。そこには家で自分を表現する機会、幾つになっても自分らしい気のないところにカビや気の

各住戸にたどりつく設計を採る。10年経っても楽しいと、人気が保ち続けている。色があること。第3のポイントは「色気があること。福岡県八女市の



パネルディスカッションで登壇した講演者各氏



講演する戸倉蓉子氏 看護覚書を書いたナイチンゲール像



く暮らすことができない社会があった。そこからヒントをもらい、日本で「箱をつくる」の家と呼んでいる。世田谷の賃貸マンション「ラ・ペラ・ウィータ」の事例では、イタリアの路地のようなエントランスから中庭を経由して

千葉県船橋市の不動産業、な住宅産業の側にはなく、者、滝口長太郎氏が新たな日本の経営理念である倫理、保する人間が主役の側にあることだ。

「ホスピタルデザインウィーク」企画

3月27日、西新宿で講演会

19年秋を実現目標に「病院を明るく」

ホスピタルデザイン研究会 都稲城市の医療法人社団慶成会・戸倉蓉子代表は、3月27日午後6時から、東京・西新宿の京王プラザホテルで「ホスピタルデザインウィーク」のキックオフ講演会を開く。

テーマは「ホスピタルデザインの最新線」。講師は第一部が経済産業省の江崎植英・ヘルスケア産業課長と医療費の削減に貢献し、同時にヘルスケア産業の活性化を目指す一もの。525。

開催の趣旨

日本を元気に。日本の医療費はついに40兆円を超え国の財政を圧迫している。国民の一人一人が健康増進し、医療費や介護にかかる時間を減らすことで日本の未来を明るくする。その中で病院という役割は病の人を治す場所だけでなく、病にならないため所でも早く元気になる場所として存在する必要性がある。患者さんが元気になるための空間構成、商品、しくみを総称してホスピタルデザインと位置づけ、病院経営者、建設者、設備、食事、衣料など医療に関係する企業や人の意識改革とこれからの日本の明るい未来のためにこのウィークを開催したい。

代表 戸倉蓉子

玄関に全身鏡を置いて

も最期まで色気忘れられない心。私には他人のためでなく、自分のためでもある。色気のある暮らしのために、皆さんに提案したい。健康、長生きできるようにも。出かける前に自分の姿を見て、「今日はいか」と思えば一日気分よく仕事ができる。そう思えるようにしようとする。環境から健康、長生きできるようにも。出かける前に自分の姿を見て、「今日はいか」と思えば一日気分よく仕事ができる。そう思えるようにしようとする。環境から健康、長生きできるようにも。

進、板橋から始動 こそ導入必要 法人会と医師会が連携



⑥セミナーの講師を務めた今村隆日本医師会副会長(右から2人目)とセミナーを企画した、いたばし倫理法人会の幹部左から内実委員長、鈴木直前会長、右端が石塚相談役。⑤活発なグループディスカッションの様子

大言小語

「医療は、環境まで幅広く、どんどん進化するのに、どうして病院内は、どこも昔から同じ雰囲気なんだろう」という疑問。そして「デザインは人の病と闘う力を引き出せる」という信念。

「病院を病院で

出始めている。

はなく、健康の院、「健院」にしたい」と願うドムスデザイン代表取締役・戸倉蓉子さん。今年、病院に関係する一切にデザインを導入して、一新しようという「ホスピタルデザインウィーク」の実現に向けて活動を始める。

ホスピタルデザイン

▼日本の病院を施設のようなさびしい環境ではなく、「明るく元気な気持ち」になれる場所にしようという企画だ。そのデザインとは建築からインテリア、病院食、病院衣料、I

環境まで幅広く、ヘルスケア産業全般が対象となる。既に一人ひとりが導うカラフルで個性的な病院服を着て、室内には農園で採れたばかりの花が飾られている。「最期はここで」と思わせる先駆的な事例が各地に

▼戸倉さんは看護師から一級建築士になった。イタリアで学んだことを基に、国内外で患者が元気になる病院やコミュニティが自然と醸成される動線を配した賃貸マンションの設計などに取り組んでいる。「病院はサービス業」というのも持論だ。病院が変わることを目指して3月、都内でキックオフ講演会を開く。ホスピタルデザイン研究会代表としてウィーク実現の旗を振る。高齢社会の日本を元気にする一つの試みである。